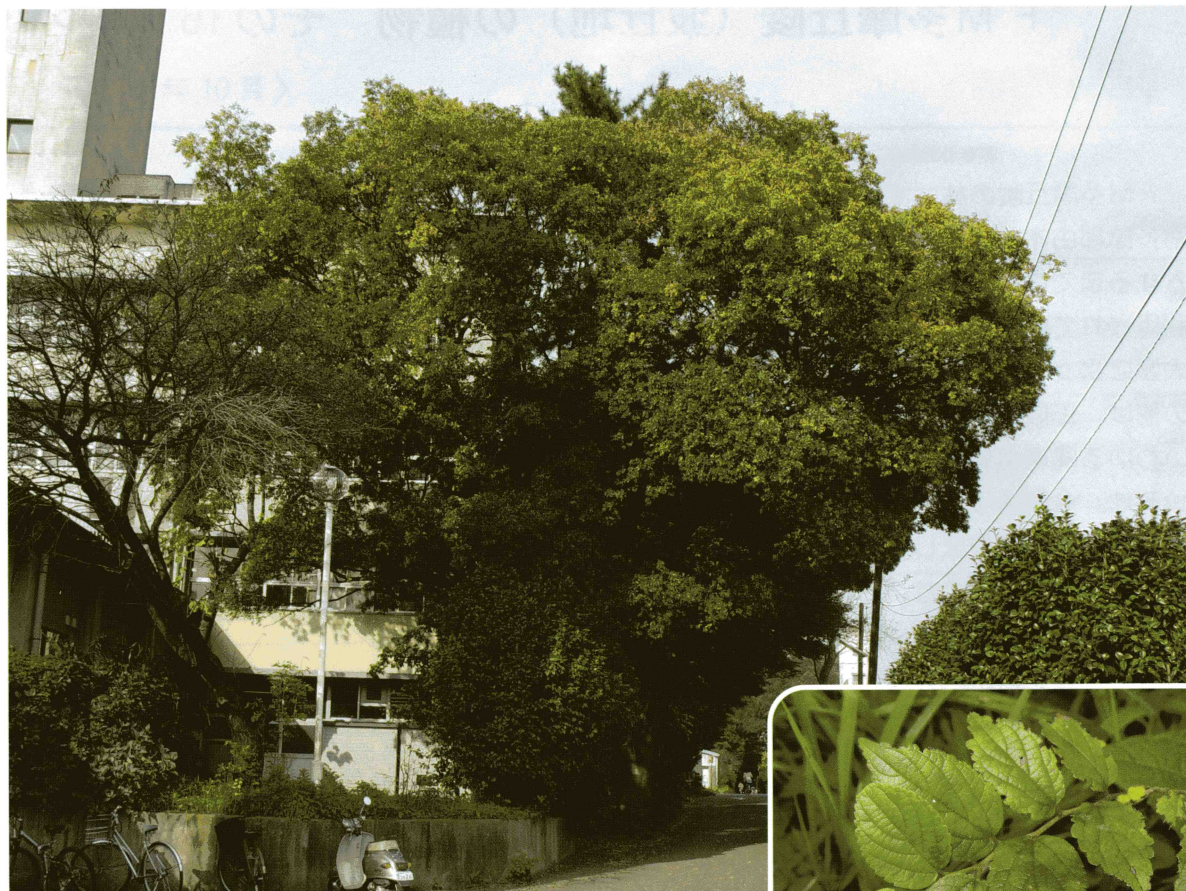


農工大の樹 その52



〈 解 説 〉

エノキ

エノキ(ニレ科エノキ属の種、学名：*Celtis sinensis* var. *japonica* Nakai、漢字：榎)

この種は高さ20m、直径1m以上にもなる落葉高木で、北海道を除く日本、朝鮮半島、台湾、中国中南部、東南アジアに分布します。日本では沿岸地域や谷部によく見られます。枝にヤドリギが寄生することが多く、また、幹には乳房状の瘤ができやすいため、不思議な霊が宿る木とみなされ、寺社の境内にも植えられました。大木になったこの木の中には「縁切り榎」、「縁結び榎」「乳房榎」などと呼ばれたものもありました。また、大木になると遠くからも見え、夏には緑陰をつくることから、一里塚の上にもよく植えられました。樹皮は灰色でざらつき横縞状の模様がするのが特徴です。10cmくらいの葉は、ややゆがんだ楕円形で、両面ともざらつき、中央から上部にかけて粗い鋸歯があります。果実は秋に赤褐色に熟し甘いので、小鳥が好んで食べます。静岡の登呂遺跡でもこの種の種子が多く見つかったことから、弥生人にとっては重要な食料であったと考えられています。この木は学内にも多く見られます。実の熟するのはこれからです。この実を食して、古代人が味わった味を確かめてみてはいかがでしょうか？

(環境資源共生科学部門 教授 福嶋 司)